

令和2年度 調布市障害者地域自立支援協議会

障害理解の促進ワーキング

～当事者が障害理解を普及啓発していく為の仕組み作り～

テーマ：障害理解の促進を考える

第3回ワーキング

日時：令和2年12月16日（水）18時～20時

場所：調布市市民プラザあくろす ホール1

参加者：委員10名 事務局10名

小テーマ「 ～ 今後のワーキングの方向性・学習プログラムの枠組みについて ～ 」

内容：

- ① 今後ワーキングにおいて取り組む事、方向性について
今後のワーキングにおいて取り組む事や目標について、またその取り組む具体的なスケジュールについても委員に提案をして共有を図る。

- ② 当事者育成に向けた学習プログラムの枠組み、内容について
学習プログラムの全体的な骨格や枠組みについて（目的、ねらい、ボリューム）等の意見出し。

主な意見

- ・6月に当事者向けの研修を開催する事を目指して、プロジェクトチームを作り、準備を進めていく事が出来れば良いと思う。
- ・当事者向けの研修は、初めての試みだと思うので、まずは規模を小さく開催した方が良いと思う。
- ・障害者が地域の中で困っている事を話し、自分の事をPRできる様な人を増やしていく事に意味がある。
- ・学習プログラムの中に色々な生活場面で障害あるある等を話し合い、その問題について考える時間があると良いと思う。
- ・社会モデルを一つのキーワードにして、研修を進めていくと、今までにない新たな視点は獲得できると思う。その上で聴覚障害の理解、視覚障害の理解が進んでいくという道筋が出来れば良いと思う。
- ・社会モデル、医学モデルが何かという事を知らない人が多いと思う。まずはその概念を学ぶ事をして良いと思う。
- ・障害の事に限らず、伝えたい事を自分の頭で上手く構成出来る力、上手く見せる方法等を学ぶ事が大事だと思う。
- ・生活の中にある場面を切り抜いてそれぞれの困り事について話し合い、当事者ごとに異なる困り事や共通点について知り、障害に対しての新たな気づきや視点を持っていく。
- ・障害特性よりも、朝起きて寝るまでの時間で困りそうな事、時間がかかりそうな事を当事者間で情報交換する事で視点が広がり、ものの言い方が変わってくると思う。
- ・研修を仮に2日間として、基礎編と実践編の様な形できちんとプレ講義をする時間を作った方が良いと思う。

まとめ

当事者養成研修の枠組みとしては、全体的に入門講座というので、まずは小さな規模で学びの場を作り、参加者の意見をもとに段階的にボリュームを増やしていく。また、学習の内容については実践的なプログラムも取り入れ、この研修が参加者にとって、障害を多様な視点で見つめ直す機会となる事が重要である。

これまでの到達点

第3回では、当事者養成研修の実施に向けて今後のスケジュールについて共有し、そこで行う学習プログラムの枠組みについて協議・検討した。学習プログラムの枠組みは、参加者も初めての経験となる為、まずは入門編として学びの場を作る。そして、参加者が障害に対して新たな視点を持てる様な内容とする事が重要であると確認した。

今後の展望と課題

今年度ワーキングでは人材（当事者）育成の為に学習プログラムについて協議してきた。他自治体や他団体における人材（当事者）育成の現状や仕組みについて知る事が出来たのは、今後調布市において学習プログラムを作っていく際に大変参考となる情報であった。今後は、調布市として当事者養成研修を実施していく為に、まずは学習プログラム案としてその内容を具体的に決めていく必要がある。